



①学校で学習に利用

ICTの活用により、情報整理が簡便になることに気付かせ、より活用しようとする意欲を育てる

令和5年 ICT 利活用推進事業 宝塚市立仁川小学校

本時の目標	校種・学年	小学校・4年生
・「アップ」と「ルーズ」を対比的に説明することで、筆者の主張がより分かりやすく読者に伝わることを理解する。	教科・領域	国語・アップとルーズで伝える（光村図書）
	アプリ・ソフト	・ムーブノート(ミライシード)
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時場面の音読 ○自分の意見のカードをグループの広場へ送る ◆カードの色分けにより「アップ」「ルーズ」の違いを分かりやすくしておく
展開	4・5段落を比べて、気づいたことを交流しよう。 ○グループでベン図を整理し、意見を交流する ○グループで出た意見を全体で交流する ◆意見のカードに書かれている内容ごとに整理させる ◆長所と短所があることに気付かせる ○なぜ長所だけ書かなかったのか理由を考える ◆自分が筆者ならという観点を持たせる
まとめ	○全体で意見を交流する ○ふりかえりを書く ◆ふりかえりの視点を明確に持たせる

育成できる情報活用能力

◎教科書から見つけた情報（「アップ」「ルーズ」）を整理し、まとめる（カードに書く）ことができる。



育成できる情報活用能力

◎グループの中から出てきた情報を、交流しながらベン図に整理し、それぞれの特徴を整理することができる。



児童の感想

- ・ベン図をノートに書くよりも（端末を活用することで）意見の整理がしやすく、わかりやすかった。
- ・同じ画面を自分の席で見ながら話し合えたので話し合いやすかった。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・グループで意見を出し合うことで、友だちの意見を参考に情報をいろんな方向から見るができる。
- ・共同作業の中で互いの意見や活動を尊重し合おうとする姿が見られた。



①学校で学習に利用

コンピューターの正しい使い方を一人一人が考え、友だちと共有することで考えを広げる

令和5年 ICT 利活用推進事業 宝塚市立仁川小学校

本時の目標	校種・学年	小学校・1年
・端末を活用する際に想定される様々なトラブルについて想像し、気付くことができる。 ・端末を上手に活用するためのルールを考え、それらを守ろうとすることができる。	教科・領域	その他
	アプリ・ソフト	・ムーブノート(ミライシード) ・ひょうご GIGA ワークブック
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○タブレットパソコンを使うときに気を付けることを考える。 ◆イラストを提示し、「使い方は正しいかな?」という観点を持つよう伝える。 ◆本校で使用する端末と形状が違うので、イラスト内の端末の形を伝える。
展開	タブレットパソコンの正しい使い方を考えよう ○イラストの中から使い方の気になるところを探し、スタンプを付け、理由を書く。 ○カードを広場に送り、友だちの気になった所を見る。 ◆自由に友だちのカードを見られるようにすることで自分のペースで学習できるようにする。 ○みんなの気になった所をスタンプ集計で見る。 ◆クラスの中で気になった所が集中していることに気付かせたい。
まとめ	○自分の気付きを発表する。 ○気を付けるポイントの解説を聞く。 ◆気付きはあったが明確でない部分などの解説をすることで、何にどう気を付ければよいか確かめる。

育成できる情報活用能力

- ◎使い方のおかしいところに気付き、正しい使い方を考えることができる。
- ◎カードの中で気になるポイントと理由を関連付けて書くことができる。



育成できる情報活用能力

- ◎広場に出した友だちのカードを自由に見られるので、友だちのカードと比べたり、自分のカードを書く際の参考にしたりすることができる。



<情報活用能力の育成とその効果>

- ・端末の使い方を客観的に捉えることで、自分の使い方を振り返り、正しく安全に使おうとする態度を育むことができる。
- ・他者参照や意見比較のしやすい環境を作り、自分のペースで学べることで、意見を持ちにくい児童の支援とすることができた。

児童の感想

- ・友だちのスタンプが見えておもしろかった。
- ・たくさんの友だちが同じように危ない使い方を見つけているのが分かった。



①学校で学習に利用

自分の考えを、英語で表現するための情報収集、比較、表現、発信力の育成

令和5年 ICT 利活用推進事業 高砂市立荒井中学校

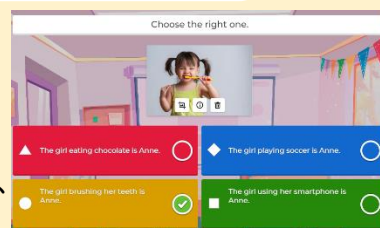
本時の目標	校種・学年	中学校・3年生
・クイズ制作を通して、グループ内での対話的な学習を深めることができる。 ・「私の夏休み」と題したスピーチを英文で作り、友だちに分かりやすく伝えるための工夫をすることができる。	教科・領域	英語・
	アプリ・ソフト	・GoogleChrome ・ミライシード ・オクリンク ・Google ドキュメント ・Kahoot! (https://kahoot.it/)
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時のめあてを確認する。 自分の夏休みをどう過ごすかを考え、友だちにわかりやすい英文で伝えよう。 ○Kahoot!にアクセスし、英語に関するクイズをグループで問題を作成、その後、競い合う。 ◆単なる早押しクイズに終わらないよう、しっかりと問題の英文を読むことを指導する。
展開	○クラスルーム（英語）にある様式を開き、自身の夏休みの計画や過ごし方を日本語でまとめる。 ○日本語をもとに、英作文を作成する。 ◆必要に応じて、辞書サイトを活用させる。また、スピーチに必要な発音も確認する。 ○英作文を様式に入力し、それを読み上げ、音声データをオクリンクで学級内に共有する。 ◆スピーチをタブレットで聞く際、ボリュームに注意する。
まとめ	○生徒の英作文スピーチを電子黒板に提示し、優れた作品を教師が紹介する。 ○発表後に、質疑応答を英語で行う。 ◆友達の質疑応答を参考に、自分のスピーチを修正・加筆し、ブラッシュアップさせる。 ◆発音は、辞書サイトで確認させ、ネイティブな発音を意識させることで、より良いスピーチにすることができることを伝える。

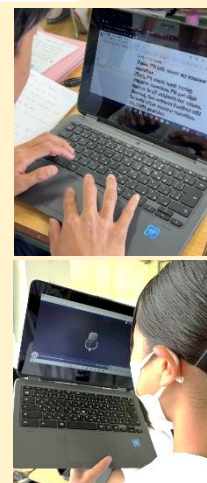
育成できる情報活用能力

◎Kahoot を利用した英語に関する4択問題を作成することにより、新たな価値を創造・発信する力が育成される。また、グループで意見交換を行いながら問題を作成するため、対話的な学びの育成が期待される。



育成できる情報活用能力

◎英単語をインターネットで検索、情報収集しながら課題解決に向けて学習を進める知識技能を育成する。
◎音声データを扱うことでタブレット機能の汎用性を理解する。
◎受け手に伝わりやすいスピーチの制作を通して、情報発信力を高めることができる。



生徒の感想

- ・Kahoot!制作では、正解に類似する選択肢をグループで意見を出し合いながら決めるのが楽しかった。
- ・自分の考えや行動を、英文にするのは比較的簡単にできるが、友だちに分かりやすく伝えるための表現を工夫するのが大変だった。
- ・友だちのスピーチを手元のタブレットで聞くことができ、新たな表現方法を知ることが出来た。
- ・録音機能を使ったスピーチの学習が楽しかった。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・クラスルームによる課題の配信、オクリンクによる課題提出と収集が効率よく行える。その後の評価場面でも時短が図られる。生徒のスピーチにコメントを入れることもドキュメント上で行うことが可能。
- ・自分なりの表現を考え、わかりやすく伝える工夫やネイティブの発音を繰り返し聞くことで、より良いスピーチを作る意欲が出ていた。
- ・他者の意見と自分の意見を比較しやすく、情報整理、分析力が高まる。



①学校で学習に利用

ひょうご GIGA ワークブック活用による情報モラル学習＜災害時の SNS の使い方＞

令和 5 年 ICT 利活用推進事業 高砂市立荒井中学校

本時の目標	校種・学年	中学校・1 年生
・災害時の情報の見極め方ができる。 ・SNS を通じて防災に貢献できることを知り、防災への意識を高める。	教科・領域	総合的な学習の時間
	アプリ・ソフト	・GoogleChrome ・ひょうご GIGA ワークブック
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時のめあてを確認する。 災害時の SNS 情報の見極め方ができる。 SNS を通じて、自分も災害情報を発信できる。
	○ひょうご GIGA のカード教材を活用 ◆教材が示している災害発生状況をグループ内で十分確認させる。 ◆台風の接近を伝える気象予報の動画をタブレットで視聴させ、訓練の臨場感を高める。
展開	○情報防災訓練を実施 クラスをグループに分けて、各グループに4枚の SNS 画面カードを配布し、11:50 時点での情報を読み比べ、どのカードの信頼性が高いか個人で考える。 ○自分で考えた信頼度をグループ内で発表し合い、協議する。 ○台風通過後の 19:10 のカードを読み、どのカードが信頼できるのかを協議する。 ◆カードを分類する際の基準や、選んだ理由についても説明するよう指導する。 ◆低信頼のカード情報を信じた場合、どのような結果が予想されるか協議させる。
	○どこに注目して情報を見極めたのか、各グループの協議内容を学級全体で共有する。 ◆情報は「だ（誰が）い（いつ）ふく（複数の情報を確かめたのか）」の視点で見極めることが必要であることを確認させる。 ○「だいふく」の視点で、再度8枚のカード情報を読む。信頼度がはじめの時と比べて変化したかどうかを確認する。 ◆今日の授業内容を、家族でもやってみるよう伝える。
まとめ	

育成できる情報活用能力

- ◎必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造について、本教材を通して学習することができた。



災害発生時という特殊な状況下での情報発信は、受け手の状況などを踏まえた発信に十分配慮をする必要があることを学ぶことができた。

育成できる情報活用能力

- ◎災害に関する情報伝達手段が SNS であることを踏まえ、情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解することができた。匿名性と信頼性の関係についても検討

- ◎自らが情報を発信する際の、情報に対する責任についてグループで協議しながら意識した。



生徒の感想

- ・SNS では、誰が発信したかが重要だと感じた。あおる様な表現が使われている時こそ、冷静な判断が必要だと感じた。
- ・「だいふく」という覚えやすいキーワードを理解することができてよかった。災害発生時はきっと、パニックになっているから今日のような情報の見極めができるか不安だ。

＜情報活用能力の育成とその効果＞

- ・今回は「情報社会に参画する態度」のうち、社会生活の中で情報が果たしている役割や及ぼしている影響の理解を深めることができた。生徒にとって身近な SNS の発信が災害発生時に、どのような影響を与えるのかを考える契機となった。



①学校で学習に利用

一人ひとりが参加し、意見を述べ合う人権学習

令和5年 ICT 利活用推進事業 たつの市立龍野東中学校

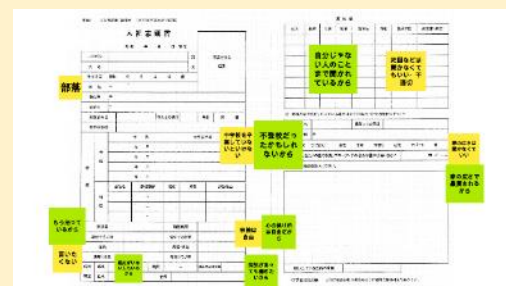
本時の目標 ・社用紙の不合理性に気づかせ、差別について、今なお続く問題と捉え、自ら差別を見抜き、その解消に向けて行動する意欲や態度を養う。	校種・学年	中学校・3年
	教科・領域	道徳・人権 「なぜ、こんなことが関係あるの？」
	アプリ・ソフト	・Google Jamboard ・Google Chat
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○将来就きたい職業について考える。 ○就職試験の際に、自分のどこを見てもらいたいかを考える。 ◆人物を評価するときに、本人の適正、能力、意欲、関心が大切であることを確認させる。
展開	統一応募用紙ができた理由を考える。 ○個人で社用紙の不合理性を考える。 ○Jamboard を使い、班で社用紙の不合理性について考え、発表する。 ◆不適切な質問だと思った理由を考えさせることで、本人の適性や能力以外で可否を判断することが、就職差別につながっていることに気づかせる。 ○統一応募用紙ができた理由を考える。
まとめ	○本時の振り返りをする。 ○Google Chat を使い、本時の振り返りを全員で共有する。チャット内の入力またはワークシート記述とする。 ◆チャット内の他者意見を参考にしてよいことを伝え、自分の学びを深められるように促す。

育成できる情報活用能力

◎班で出てきた意見を、共有しながら整理することができる。



育成できる情報活用能力

◎生徒一人ひとりが自分の意見を発信することができ、全員で共有することができる。また、チャットに書き込むか、紙に書いて画像を送信するかは、生徒が選択できる。



生徒の感想

- ・ノートや紙に書くときとは違って、他の人はどんなふうに考えたのか、どんな意見なのかを知れて、自分とはちがう新しい考えの意見を見ることができ、面白くていいと思いました。
- ・タブレットを使うとなると自分がどんなことを言いたいのかを文字として見ることができ、意見がまとめやすくなったのでタブレットを使うことはいいと思いました。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・Google chat を使うことで、瞬時にクラス全員の意見を収集、共有できる。そのため、他者意見を参照したり、比較したりすることができ、学びを深める手立てとなる。



①学校で学習に利用

ドローンを活用したプログラミング教育

令和5年 ICT 利活用推進事業 高砂市立荒井中学校

本時の目標	校種・学年	中学校・3年
・グループで飛行コースを設置し、障害物を避けながら目的ポイントまでの飛行ルートを探求する。 ・ドローンのプログラミングを通して、グループ内で課題解決力を高め、協働的な学習を行う。	教科・領域	技術・家庭科
	アプリ・ソフト	・GoogleChrome ・DJI Tello Edu App
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時のめあてを確認する。 ドローンをプログラミング飛行させ、設定された飛行コースをクリアする。 ○Tello Edu を使ったプログラミング飛行のデモンストレーションを見せる。 ◆ブロックプログラミングの方法を解説 ◆安全な飛行に係る注意点の確認
展開	○各グループで、机やイスを組み合わせた障害物を配置し、飛行コースを設置する。 ◆複数の飛行ルートが想定できるように配置。 ◆上下左右の移動が必要な配置をめざす。 ○コース設定後、他グループが設置したルートを調査、距離や高さを計測。 ○Tello Edu でブロックプログラムを行い、ドローンを飛行させる。 ◆プログラム通りに飛行するが、わずかな距離のずれや、人の移動による気流変化等により、障害物に衝突、着陸位置に誤差が生じる。その問題をグループ内で協議し、プログラムを繰り返し修正させる。
まとめ	○各グループでセットしたブロックプログラムの評価を行うとともに、コースをセットしたグループの評価を行う。 ◆ドローンの飛行には、プログラム以外にも気流やバッテリーの残量などが影響することを知る。 ◆プログラムにより、ドローン（機械）を制御する楽しさと難しさをグループ内で確認する。

育成できる情報活用能力

- ◎必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造について、本教材を通して学習することができた。



育成できる情報活用能力

- ◎画面上のプログラムだけでは、実際のドローン飛行を完璧に制御できないことを体感。そこから課題を克服するための工夫を協議、プログラムの精度を高める。
- ◎グループ協議により、試行錯誤を繰り返し、プログラミング的思考を高めていた。



生徒の感想

- ・ドローンがプログラム通りに飛行するところが興味深かった。誤ったプログラムでもドローンはその通りに飛ぶので、プログラムをする側の責任が重大だと感じた。
- ・目的のコースを正確に飛ばすためには、事前に距離や方向、高さなどの多くの情報を正しく収集することが大切だと思った。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・今回は「情報活用の実践力」のうち、必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造について理解を深めることができた。
- ・生徒は、プログラムを正確に組むためには、様々な情報の収集と判断や処理が強く関係していることを考える契機となった。



①学校で学習に利用

学習者用デジタル教科書を用いた英語の授業

令和5年 ICT 利活用推進事業 たつの市立龍野東中学校

本時の目標	校種・学年	中学校・1年
・過去形の疑問文と否定文を理解する。	教科・領域	英語・Winter Vacation
	アプリ・ソフト	・デジタル教科書 ・Google スプレッドシート ・Google ドキュメント ・Google フォーム ・AI ドリル
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時のめあてを確認する。 朝美とメグのお正月の思い出を読み取ろう
展開	○過去形の疑問文と否定文を理解する。 ◆現在形の文と過去形の文の違いを見るために文体を比較する。 ○単語の確認をする。 ○デジタル教科書 P106 の本文読解をする。 ○読上速度を調整して各自で何度も聞く。 ◆学習の見通しを明らかにするために、Google スプレッドシートで学習手順を示す。また、進捗を確認し、個別の指導につなげる。 ○教科書確認問題をする。
まとめ	○本時の振り返りをする。

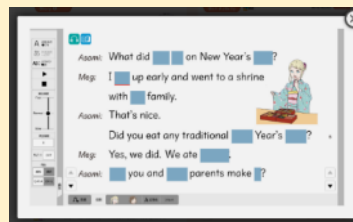
育成できる情報活用能力

◎デジタル教科書を用いると、速さの設定できたり、何度も繰り返し視聴できたりするなど、発音確認や音読練習を自分のペースで進めることができる。



育成できる情報活用能力

◎さまざまな機能を使い、自ら伸ばしたい力を考え、それに向けてアプローチできる。自分で勉強の計画を立てることができる。



生徒の感想

- ・自分に合ったスピードを選べ、聞き逃した部分を何度も聞くことができるのが使いやすいと思った。
- ・マスク機能で隠して練習することができるので、覚えるときに便利だと思った。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・一斉の授業では英文読解の苦手な生徒への支援が難しかったが、デジタル教科書があると多くの生徒は自ら教材を進めることができ、主体的に学ぶ姿が見られた。



①学校で学習に利用

GIGA ワークブックを用いた総合的な学習の時間・防災学習

令和5年 ICT 利活用推進事業 たつの市立龍野東中学校

本時の目標 ・災害時のSNSの使い方について考えさせ、受信者、発信者の責任を意識づける。	校種・学年	中学校・1年
	教科・領域	総合的な学習の時間・防災学習
	アプリ・ソフト	・ひょうご GIGA ワークブック ・Google スライド
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時のめあてを確認する。 災害時のSNSの使い方について考えよう
展開	○ひょうごGIGAワークブックを使って、信頼できる情報かどうかを見分ける。 ◆信頼できる理由を考えることから、SNSの使い方を自分事として考える。 ○発信してもよい情報かどうかを考える。 ◆情報の危険性を考えることで、普段の自分のSNSの使い方につなげる。
まとめ	○本時の振り返りをする。

育成できる情報活用能力

◎信頼できる情報を判断するために見るべきポイントを学ぶことができる。



育成できる情報活用能力

◎SNS で情報を発信する際に気を付けるべきポイントを学ぶことができる。



生徒の感想

- ・災害について、災害が起こった時や起こった後は学んできたので、災害が起こった時にどう情報を得るべきか考えられた。災害時だけでなく、常に SNS の使い方には気をつけたいと思った。
- ・「『いいね！』が多い情報＝信頼してよい情報」というわけではないなど、想定していた部分がことごとく外れていた。今回の授業で、情報の信頼性を判断する際に見なければいけないところを理解できた。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・校内行事で行っている SNS 講習会で学んでいる内容も、防災学習の一環として学び直すことで、どんな時でも気をつけなければいけないという意識が高まったように感じた。



①学校で学習に利用

音声入力システムを使用した聞き方の学び

令和5年 ICT 利活用推進事業 たつの市立龍野東中学校

本時の目標	校種・学年	中学校・2年 特別支援学級（弱視）
・自分の話し方を可視化し、どんな話し方をしているかを知り、よりよい伝え方を考える。	教科・領域	国語・聞き上手になろう
	アプリ・ソフト	・Google ドキュメント
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時のめあてを確認する。 自分の話し方を記録したものを振り返って、よりよい伝え方を考える
展開	○「インタビュー」を、ドキュメントに記録する。 音声入力機能を使う。 ◆ショートカットキーを使うことで、入力が容易になることを伝える。 ○記録した会話文を見返す。 (1)声に出して読み返し、良い点やわかりにくい点、改善したい点を探し、自己評価する。 (2)もう一度読み直し、改善されたかを確認める。 ◆よりよい話し方が何かを考えるために、振り返りプリントを活用する。
まとめ	○本時の振り返りをする。 ○次のインタビューのテーマを考える。

育成できる情報活用能力

◎音声入力の機能を使うことで、自分が質問した言葉や、相手が答えた言葉を一言一句逃さず記録する技能が身につく。



育成できる情報活用能力

◎自分の発言を可視化し、その都度確認したり、比べたりすることで、客観的に自分の発言をふり返ることができる。

2月5日（月）5校時
【めあて】
自分の話し方を記録し、よりよい話し方を考える。
○最近ハマっていることについて
金澤：それでは水野先生 最近ハマっているものについて教えてください
水野：最近パン屋巡りにはまっています
金澤：えそうですか そのパン屋さん巡りというのは自分がその散歩と歩道時に見かけたり、それとも事前に調べて入るのかど
水野：散歩している途中に見かけますが近くにはパン屋さんがなくていくことが多いです
1月29日（月）5校時
【めあて】
それではM先生 最近ハマっていることについて
M先生：はい 最近 パン屋さん巡りにはまっています
M先生：どういう風に回っているのっているのですか
C：どういつ風回っているっていうのはそれはどういことですか
M先生：えその具体案でパン屋さんを見かけたらその行ってみようかなというもののなか センターもなんかもういちいちホテルパン屋さん巡りしてるのかという質問です
(A) そうですか ちなみに そのパン屋さん巡りっていうのは見かけたら行くのでしょうか それとも

生徒の感想

・話し方の記録をとり始めて、良いと思えたことがあります。それは間違えたところなどを文字で確認できることです。例えば、一度話した内容をもう一度授業でした時に、前に間違えたところと比べて改善することができました。自分が成長していることに気付いたとき嬉しかったです。

<情報活用能力の育成とその効果>

・今まであまり考えて発言していなかったらしく、言ったことを覚えていないことが非常に多かった。この記録を通して、自分の発言の曖昧さや伝わりにくい言い方をしていたことを自覚することができた。
・発言が文字として残るので、客観的にふり返ることができる。また、今までの記録と見比べることができるので、自分で改善点を見つけやすく、自己の成長を確認することができた。



①学校で学習に利用

Google chat で学び合う理科の授業

令和5年 ICT 利活用推進事業 たつの市立龍野東中学校

本時の目標	校種・学年	中学校・3年
・昼間の長さや南中高度などが季節によって変化することを確認し、その理由が地球の地軸が傾いたまま公転するためであることを理解できる。 ・実験の結果や自分の考えをまとめることができる。	教科・領域	理科 天体 太陽の動きと季節の変化
	アプリ・ソフト	・Google スライド ・Google スプレッドシート ・Google チャット
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○前時の振り返りとして、季節による昼間の長さの違いを確認する。
展開	各季節の太陽の南中高度を比較し、各季節の特徴をまとめよう ○太陽の南中高度を調べ、地軸の傾きによる季節の変化についてまとめる。 ◆Google クラスルームにある実験手順を用意させ、生徒の手元でも確認できるようにする。 ○自分の考えと友達の見解を比較する。 ◆他グループのまとめを参照したり、意見交流したりすることで、自グループのまとめ内容を深める。
まとめ	○本時の振り返りをする。

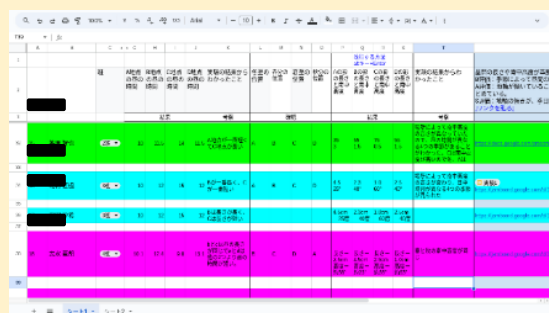
育成できる情報活用能力

◎実験の結果をもとに、自分の考えをまとめることができる。インターネットを活用して必要な情報を集め、知識を広げることができる。



育成できる情報活用能力

◎互いの意見が共有できる。他の生徒の意見を参考に自分の考えを深めることができる。



生徒の感想

- ・写真で残せるので、わかりやすいし、その時のようすが思い出しやすい。
- ・友達のことを知ることができるので、新しい発見がある。
- ・考えを整理しやすかったり、まとめやすかったりと、とても勉強しやすい。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・写真を使って記録を残すことができるので、実験の結果がわかりやすい。また、振り返りがしやすい。共有が容易にできるので、様々な意見を比較することができた。